



Press Release

佐賀県 伊万里市

〒848 - 8501

佐賀県伊万里市立花町 1355-1

Tel 0955-23-2111 (代表)

Fax 0955-23-6113 (代表)



報道関係者各位

令和5年5月31日

アウグスト強王旧所蔵品の色絵皿を確認しました

この度、伊万里・鍋島ギャラリー所蔵の色絵鳥幕桜牡丹文輪繫透皿（以下、色絵皿）がアウグスト強王ことザクセン選帝侯フリードリッヒ・アウグスト一世（1670-1733）の旧蔵品であることが、櫻庭美咲氏（神田外語大学日本研究所）を研究代表者とする共同研究により判明しました。

旧蔵品は、王命により、底面などにパレスナンバーと呼ばれる番号が記載されており、このパレスナンバーによりアウグスト強王の旧蔵品であることがわかります。確認された色絵皿はドレスデン国立美術館5点、佐賀県立九州陶磁文化館1点、伊万里・鍋島ギャラリー1点 計7点が確認されており、パレスナンバー（N:316+）も共通しています。

アウグスト強王の旧蔵品として記録された作品を新たに確認できたことは肥前陶磁器の海外流通や当時の王侯貴族の趣味嗜好を知るうえで貴重な資料を得ることができました。

この色絵皿は現在、伊万里・鍋島ギャラリーで開催中の「綺麗なうつわ 一色鍋島と金欄手古伊万里展」にて展示中です。この貴重な作品を多くの方に見ていただくため、会期を令和5年7月30日まで延長して展示いたします。

問合せ先

伊万里市教育委員会

生涯学習課

担当：船井（ふない）

電話 0955-22-1262

伊 万 里 市

～ 人がいきいきと活躍する 幸せ実感のまち ～

アウグスト強王の旧蔵品である

伊万里・鍋島ギャラリー所蔵 色絵鳥幕桜牡丹文輪繫透皿について

1. 調査の経緯

櫻庭美咲氏（神田外語大学日本研究所 講師）を研究代表者とするアウグスト強王が収集した日本磁器に関する共同研究として「アウグスト強王コレクションにおける 18 世紀前期輸出磁器と『日本宮』の日本表象研究」が 2019～2022 年度に実施された。この調査研究はドレスデン国立美術館磁器コレクション館が主催する国際共同研究プロジェクトの一翼を担うものである。今回の新たな発見はこの調査研究の成果によるものである。

2. アウグスト強王コレクションについて

アウグスト強王ことザクセン選帝侯国選帝侯フリードリッヒ・アウグスト一世（1670-1733）は、バロック時代を代表する君主の一人であった。ヨーロッパで初めて磁器の焼成を成功させ、1710 年にマイセン窯を設立させたことでも知られている。

18 世紀の初頭、アウグスト強王は既に膨大な数の東洋磁器を所持していたが、ドイツにすでに多数の先例がある磁器陳列室には飽き足らず、城の全室を東洋とマイセンの磁器で装飾することを構想し、「オランダ宮」と呼ばれていた城を 1717 年に購入した。1719 年に息子であるフリードリッヒ・アウグスト二世とオーストリア皇女の婚礼の晩餐会がこの城で催され、この時点で全室が磁器で装飾された様子が描かれている。その後 1720 年頃にこの城は「日本宮」と称されるようになる。この城は、さらに増改築され、豪華な磁器宮殿となる予定であった。磁器を装飾するための設計図面が多数残されている。

しかし、1733 年アウグスト強王は急逝し、継承したアウグスト三世は磁器に興味を示さず、日本宮は一部の部屋に磁器が陳列されていたが、全体が完成することなく計画は打ち切られた。

1721～27 年に作成された日本宮の所蔵目録では中国・日本産の磁器約 25,000 点、その後の 1779 年に作成された所蔵目録では磁器約 29,500 点あったことが確認されている。このうち現在、約 8,000 点の東洋磁器がドレスデン国立美術館磁器コレクション館に所蔵されている。

東洋磁器は日本宮の食卓、宮廷厨房や宮廷菓子工房でも用いられた。また、アウグスト強王以外の王の部屋の調度品に利用されることもあった。

その後、七年戦争戦時下の 1759 年に家具や鏡、一部の磁器などの美術品が大量に略奪された。また 1841 年の日本宮のコレクションの手引きでは、東洋磁器は民族資料のように説明され、複数個からなる組物などは、重複しているとみなされ売却された。さらに 1919・1920 年にはオークションで磁器が売却され、第二次世界大戦など幾度となく流出の危機に見舞われ、アウグスト強王の旧蔵品は世界に散逸した。現在では、ヨーロッパ各地の博物館、美術館で確認されている。

アウグスト強王の旧蔵品は、王命により、資料の底面などにアルファベット・数字・記号から成るパレスナンバーと呼ばれる番号が記載された。記載方法として番号などを彫り込み黒い塗料を加えるもの。彫り込みだけのもの。黒い塗料で番号などを書く。などの方法がある。このパレスナンバーが記載されていることで、アウグスト強王の旧蔵品であることが示される。

3. 日本でのアウグスト強王旧蔵品について

【日本磁器（古伊万里 有田製）】

伊万里・鍋島ギャラリー／色絵鳥幕桜牡丹文輪繫透皿（N:316+）（※1） 1点

ドレスデン国立美術館が所蔵する5点と同品

九州陶磁文化館／色絵鳥幕桜牡丹文輪繫透皿（N:316+）・染付芦雁文輪花皿（N:189VVV）・

色絵花盆文大皿（N:370+）・色絵花盆文透彫八角皿（N:375+） 4点

出光美術館／色絵花持美人文十角鉢（N:94□）・色絵松竹梅鳳凰文菊花皿（N:2□） 2点

戸栗美術館／色絵花鳥文輪花皿（N:80□） 1点

【マイセン磁器】

出光美術館／色絵花鳥文六角蓋付壺 1点

戸栗美術館／色絵竹虎文皿・色絵甕割人物文八角皿 2点

文星芸術大学／色絵梅鶉文皿 1点

4. 確認された色絵鳥幕桜牡丹文輪繫透皿について

ドレスデン国立美術館5点、佐賀県立九州陶磁文化館1点、伊万里・鍋島ギャラリー1点計7点が確認されておりパレスナンバー（N:316+）も共通する。

パレスナンバーの「+」は日本磁器（Japanisch Porcelain）を示している。

ドレスデン国立美術館から提供を受けた1779年の目録には「N:316+」として「鳥と花が描かれている」「縁は透かし彫り模様」「大きさはまちまち」「1枚破損、13枚」（※2）と記載されており、いずれも記号番号が一致するとともに、記録のとおり大きさが異なる輪繫ぎの透かし彫りのある花鳥文の皿であり、13枚の内の7点であることが確実視される。

5. 伊万里・鍋島ギャラリー所蔵の色絵鳥幕桜牡丹文輪繫透皿について

口径 23.5～23.8 cm 底径 11.5～11.7 cm 高さ 7.9～8.4 cm 1700～1730 年代

高台内に「N:316+」の番号が彫り込まれている。ドレスデン国立美術館所蔵品5点のうち1点が伊万里・鍋島ギャラリー所蔵品とほぼ同じ大きさである。

6. まとめ

アウグスト強王の旧蔵品として記録された作品を新たに確認できたことは肥前陶磁器の

海外流通や当時の王侯貴族の趣味嗜好を知るうえで貴重な資料を得ることができた。

18世紀初頭に有田で生産され色絵皿が伊万里津の港から旅立ち、長崎出島を經由し、はるか欧州のザクセン王国（ドイツ）まで運ばれアウグスト強王のコレクションとして記録されたことは、肥前色絵磁器が間違いなくヨーロッパの王侯貴族に愛され、求められていたことが実感できるものである。さらにその後、数奇な運命に翻弄されながら、伊万里の地に戻ってきたことは、この作品のたどったであろう数々の歴史を深く感じさせるものである。

7. 展示公開

●伊万里・鍋島ギャラリー

色絵鳥幕桜牡丹文輪繫透皿を現在開催中の「綺麗なうつわ 一色鍋島と金襴手古伊万里展一」にて会期を令和5年7月30日まで延長して展示している。

●佐賀県立九州陶磁文化館

所蔵するアウグスト強王旧蔵品である4点のうち色絵花盆文大皿（いろえかぼんもんおざら）（肥前 有田 1700～1730年代）を「新収蔵品展1 古伊万里から現代作まで」（会期：令和5年5月20日～7月9日）で展示中である。

（※1）伊万里・鍋島ギャラリー所蔵品について、展示及び図録等では「色絵幔幕花鳥文輪繫鉢」と表記していたが、櫻庭美咲氏の共同研究の成果を踏まえ研究成果内で表記している「色絵鳥幕桜牡丹文輪繫透皿」の名称に統一し、さらに図録の説明内容を変更した。

（※2）同じ記号番号の資料を所蔵する佐賀県立九州陶磁文化館 藤原友子氏のご教示による。佐賀県立九州陶磁文化館はドレスデン国立美術館磁器コレクション館 コーラ ヴェルメル氏から目録の該当番号の記載について情報提供をいただいたことによる。

引用文献

2023年 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と『日本宮』の日本表象研究
編集：櫻庭美咲 神田外語大学